



フレキシブル メディア ルーティング

フレキシブル メディア ルーティング機能は、コール レッグをサポートします。ここで、メディアとシグナリングはさまざまな仮想ネットワークまたは物理ネットワーク経由で送信されます。シグナリングネットワークは隣接サブモードの **vrf** コマンドを使用して設定します。隣接を出入りするすべてのコール レッグがシグナリングに同じ VPN ID を使用します。メディア ネットワークは、**media-address** コマンドに **vrf** パラメータを使用して設定されます。

フレキシブル メディア ルーティング機能がイネーブルになっている場合、メディア アドレスを選択すると、VPN ID ベースの選択が上書きされます。

このため、メディア VPN ID は、シグナリング VPN ID とは比較されなくなりました。代わりに、SBC は、レルムが隣接レルムと一致するメディア アドレスを選択します。IPv6 および H.323 プロトコルはフレキシブル メディア ルーティング機能をサポートします。

Cisco Unified Border Element (SP Edition) は、以前は Integrated Session Border Controller と呼ばれており、このマニュアルでは通常 Session Border Controller (SBC; セッション ボーダー コントローラ) と呼びます。

本章で使用されているコマンドの詳細な説明については、次の場所にある『*Cisco Unified Border Element (SP Edition) Command Reference: Unified Model*』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/docs/ios/sbc/command/reference/sbcu_book.html

すべての Cisco IOS コマンドの詳細については、<http://tools.cisco.com/Support/CLILookup> にある Command Lookup Tool を使用するか、Cisco IOS マスター コマンド リストを参照してください。

フレキシブル メディア ルーティングの機能履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Release 3.5S	フレキシブル メディア ルーティング機能が、Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータに導入されました。

内容

この章の内容は、次のとおりです。

- 「フレキシブル メディア ルーティング機能設定の前提条件」 (P.442)
- 「フレキシブル メディア ルーティング機能の設定」 (P.442)
- 「フレキシブル メディア ルーティング機能の設定例」 (P.443)
- 「XML 課金レコードの変更」 (P.444)

フレキシブルメディアルーティング機能設定の前提条件

フレキシブルメディアルーティング機能を設定するには、次の前提条件を満たす必要があります。
フレキシブルメディアルーティング機能を設定する前に、SBCが非アクティブ化されていることを確認します。

フレキシブルメディアルーティング機能の設定

ここでは、フレキシブルメディアルーティング機能を設定する例を示します。

手順の概要

1. `configure terminal`
2. `sbc sbc-name`
3. `no activate`
4. `allow diff-med-sig-vpn`
5. `activate`
6. `exit`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code> 例： Router# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードをイネーブルにします。
ステップ2	<code>sbc sbc-name</code> 例： Router(config)# <code>sbc test</code>	SBC コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<code>no activate</code> 例： Router(config-sbc)# <code>no activate</code>	SBC を非アクティブ化します。 (注) SBC がアクティブの場合に <code>allow diff-med-sig-vpn</code> コマンドを実行すると、システムにより警告メッセージが発行され、最初に SBC を非アクティブにするように求められます。 <code>activate</code> コマンドを使用して、SBC を再アクティブ化できます。
ステップ4	<code>allow diff-med-sig-vpn</code> 例： Router(config-sbc)# <code>allow diff-med-sig-vpn</code>	メディアとシグナリングがコール レッグで異なる VPN ID を使用することを許可します。このコマンドの <code>no</code> 形式を使用することで、メディアとシグナリングがコール レッグで同じ VPN ID を使用することを許可します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ5	activate 例： Router(config-sbc)# activate	SBC を再びアクティブにします。
ステップ6	exit 例： Router(config-sbc)# exit	SBC コンフィギュレーション モードを終了します。

フレキシブルメディアルーティング機能の設定例

次の例では、フレキシブルメディアルーティング機能を設定したときの SBC の動作を示します。

```
sbc test
allow diff-med-sig-vpn
```

次の例では、シグナリングおよびメディアのネットワークで異なる VRF を設定する方法を示します。

```
sbe
adjacency sip sipp1 ===== incoming
force-signaling-peer all
vrf vrf_sipp1
nat force-on
inherit profile preset-access
signaling-address ipv4 192.0.2.1
statistics method summary
signaling-port 5060
remote-address ipv4 192.0.2.3 255.255.255.0
signaling-peer 192.0.2.3
realm FMR
attach
adjacency sip sipp2 ===== outgoing
force-signaling-peer all
vrf vrf_sipp2
nat force-off
inherit profile preset-access
signaling-address ipv4 192.0.2.2
statistics method summary
signaling-port 5060
remote-address ipv4 192.0.2.4 255.255.255.0
signaling-peer 192.0.2.4
fast-register disable
realm FMR
call-policy-set 1
first-call-routing-table start-table1
first-reg-routing-table start-table1
rtg-src-adjacency-table start-table1
entry 1
match-adjacency sipp1
dst-adjacency sipp2
action complete
entry 2
match-adjacency sipp2
dst-adjacency sipp1
action complete
complete
call-policy-set default 1
```

```
network-id 9737
!
media-address ipv4 192.0.2.5 vrf vrf_media realm FMR
port-range 16384 32767 any
activate
!
end
```

XML 課金レコードの変更

フレキシブルメディアルーティング機能をイネーブルにすると、SBC は、次のように、XML 課金レコードの adjacency 要素に mediarealm 属性を追加します。

```
<adjacency type="orig" name="Adj1" account="Acc1" vpn="0X12345678" mediarealm="Internet"/>
```

mediarealm 属性の詳細については、付録 C の「[XML 課金スキーマ](#)」を参照してください。